



2023年(令和5年)

4月25日

火曜日

### 中日本カプセル

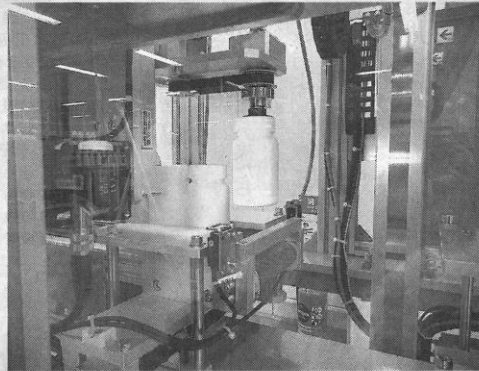
サプリメントなどカプセルタイプの健康食品を受託生産する中日本カプセル(本社大垣市荒尾町229の2、山中利恭社長、電話0584・933・1013)は、化粧箱やボトルの包装機械「Rシュリンク挿入装置」を、自動化・省力化機械メーカーのMEINAN(本社名古屋市中港区)と共同開発した。包装加工専用工場である養老工場に導入し、人手に頼っていた特殊なパッケージ工程を自動化した。

(西濃・春田昭継)

### 養老工場に導入、1日8千個処理

Rシュリンクは化粧箱などを包む透明のビニール袋で、閉じた部分が弧を描いた曲線になっている。中日本カプセルでは製品全体を包むのではなく、底の中心を残すことでパッケージを空けやすくしており、従来は作業者が手作業で一本一本、Rシュリンクをかぶせていた。共同開発した装置は、筒状のビニール素材をカットして上部を溶着。Rシュリンクを成形した上で製品をかぶせる。これを「シュリンクトネル」と呼ばれ、後工程に搬送して、シュリンクを収縮させてパッケージを完成させる。

ならないよう製品の向きを決める機能などを搭載した独自の装置を完成させた。1日に8千個の包装が可能で、4人が担当していた工程はこの装置1台に置き換わるという。共同開発のきっかけは、

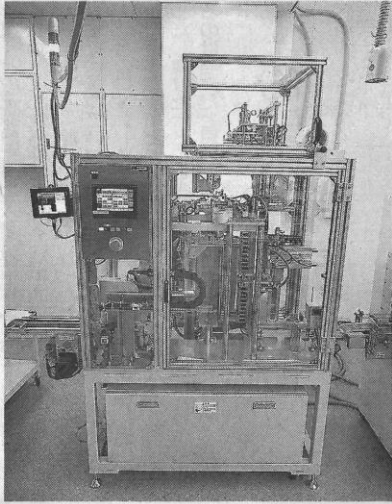


化粧箱やボトルの向きを決める機能を搭載した

21年10月に十六銀行が開催した中日本カプセル1社を対象にしたビジネス商談会。これに参加したMEINANが工程の自動化、省力化を提案する中で、同装置の開発が決まった。中日本カプセルの小林弘典製造部長は「多彩な機能を組み込んだ包装機械が実現した。今後も協力しながら、搬送や印字などの工程で自動化を進めていきたい」と話す。

# パッケージ工程自動化

## MEINANと包装機開発



共同開発した「Rシュリンク挿入装置」

両社では2022年7月に共同開発に着手し、約1年かけて、シュリンクを引っ張りながら製品を挿入する機構や、画像処理により溶着部分が文字と重